

令和5年2月食品ロス実態調査報告書
秋田市食品ロス実態調査報告書

令和5年3月24日発行

1 実施概要

■実施日時	令和5年2月16日（木）、17日（金）
■作業場所	秋田市総合環境センター
■作業時間	8：30～17：00（昼食休憩1時間、準備片付け含む）
■作業体制	秋田市職員のべ11名（地域別家庭ごみ組成調査） 受託業者職員のべ6名（食品ロス調査）
■調査資料	<ul style="list-style-type: none">・表記調査と同日に行う「地域別家庭ごみ組成調査」の調査資料である家庭ごみ100袋のうち、生ごみに分別された試料を「食品ロス実態調査」の調査試料とした。・調査資料である100袋の地区別の収集数は、中央、東部、西部、南部、北部、河辺・雄和の6地区の人口構成比により以下のとおりとした。 【2月16日】 中央（檜山11袋）、東部（東通10袋）、西部（新屋元町又は日吉町5袋）、南部（御所野8袋）、北部（下新城中野6袋、金足6袋）、河辺・雄和（河辺4袋） 【2月17日】 中央（川尻6袋、大町6袋）、東部（添川4袋、旭川4袋）、西部（新屋勝平町6袋）、南部（上北手8袋）、北部（飯島12袋）、河辺・雄和（雄和4袋）・調査資料の重量は、国の「家庭系食品ロスの発生状況の把握のためのごみ袋開封手順書」で示している「100世帯分程度のごみ袋又は生ごみで100kg～150kg程度」としていることを踏まえ、上記100袋に含まれていた生ごみ約89kgとした。

2 調査方法

調査方法は、国の「家庭系食品ロスの発生状況の把握のためのごみ袋開封手順書」に従って以下のとおり実施した。

(1) 試料採取

各地区の収集を担当する委託業者の運転員が、それぞれ当該地区のごみ集積所から、予備の袋も含め無作為に採取し、破袋しないよう作業所まで運搬、到着後、必要袋数を市職員が無作為に抽出した。

(2) 作業内容

- ・調査対象となる100袋に含まれる各地区ごとの食品廃棄物（生ごみ）の重量を計量した。
- ・食品廃棄物のうち、手付かず食品（100%残存・50%以上残存・50%未満）と食べ残し、調理くず、その他に分類し、重さを計量した。
- ・手つかず食品の賞味期限および消費期限を確認した。

3 調査結果

(1) 試料中の食品廃棄物の割合

調査対象とした試料について（図表1）、6地区の100袋の合計重量は、341.0kg、1袋あたりの平均重量は約3.4kgであった。地域別に見ると、①中央は23袋で64.2kg、②東部は18袋で66.6kg、③西部は11袋で40.4kg、④南部は16袋で57.0kg、⑤北部は24袋で86.7kg、⑥河辺・雄和は8袋で26.1kgであった。

図表1 調査対象とした試料概要（秋田市）

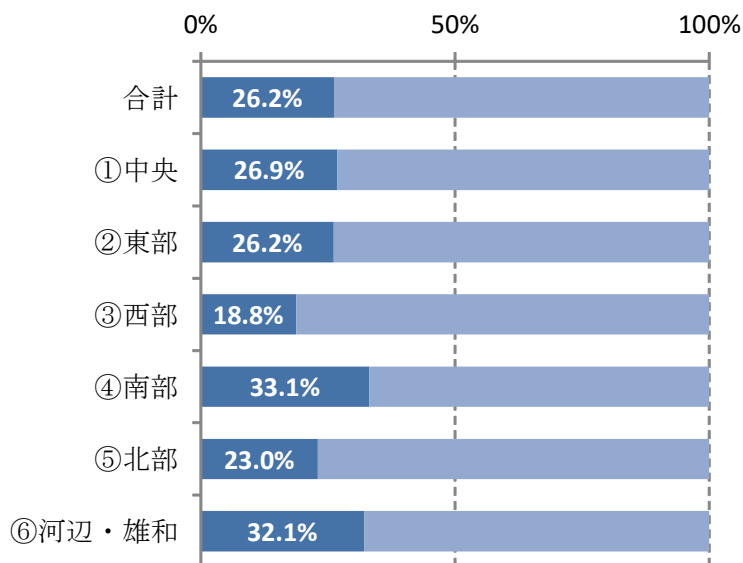
	袋数（個）	重量（kg）	容量（L）	袋あたり	
				重量（kg）	容量（L）
合計	100	341.0	3595	3.4	36.0
① 中央	23	64.2	760	2.8	33.0
② 東部	18	66.6	710	3.7	39.4
③ 西部	11	40.4	365	3.7	33.2
④ 南部	16	57.0	610	3.6	38.1
⑤ 北部	24	86.7	860	3.6	35.8
⑥ 河辺・雄和	8	26.1	290	3.3	36.3

※合計は、6地区の調査結果を足して算出したもの

試料中の食品廃棄物の割合について（図表2）、6地区の合計割合では、26.2%となっている。

地域別に見ると、④南部が最も高く33.1%、次いで⑥河辺・雄和の32.1%、①中央の26.9%、②東部の26.2%、⑤北部の23.0%、③西部の18.8%となっている。

図表2 試料中の食品廃棄物の割合（秋田市）



	サンプリング試料 A	うち、食品廃棄物 B	食品廃棄物割合 C (=B/A)	食品廃棄物以外 D (=1-C)
合計	341.02	89.48	26.2%	73.8%
①中央	64.19	17.25	26.9%	73.1%
②東部	66.64	17.44	26.2%	73.8%
③西部	40.42	7.58	18.8%	81.2%
④南部	56.98	18.88	33.1%	66.9%
⑤北部	86.65	19.94	23.0%	77.0%
⑥河辺・雄和	26.14	8.39	32.1%	67.9%

※合計は、6地区の調査結果を足して算出したもの

(2) 食品ロス（直接廃棄、食べ残し）の割合

食品廃棄物のうち、調理くずを除く、直接廃棄および食べ残しを食品ロスとする。

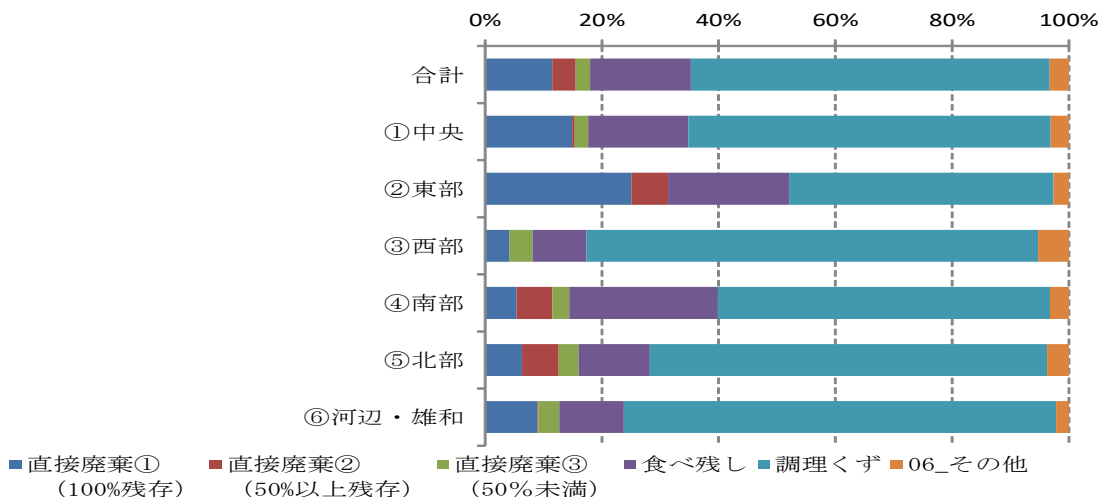
食品廃棄物のうち食品ロスの重量割合について（図表3）、6地区の合計割合では35.3%となっている。

地区別に見ると②東部が最も高く52.1%、次いで④南部の39.9%、①中央の34.8%、⑤北部の28.2%、⑥河辺・雄和の23.8%、③西部の17.3%となっている。

直接廃棄に着目すると、6地区の合計割合では、まったく手付かずの直接廃棄（100%残存）は、食品廃棄物のうち11.5%を占めており、②東部で25.1%と高く、次いで①中央が14.9%、⑥河辺・雄和が8.9%、⑤北部が6.3%、④南部が5.4%、③西部が4.2%となっている。

同様に、食べ残しに着目すると、6地区の合計割合では17.3%となっている。④南部が25.5%と高く、次いで②東部が20.7%であり、③西部が最も低く9.2%となっている。

図表3 食品ロス（直接廃棄、食べ残し）の割合（秋田市）



	食品ロス割合	うち直接廃棄（手付かず）			うち食べ残し
		100%残存	50%以上残存	50%未満残存	
合計	35.3%	11.5%	4.0%	2.5%	17.3%
①中央	34.8%	14.9%	0.4%	2.3%	17.2%
②東部	52.1%	25.1%	6.3%	0.0%	20.7%
③西部	17.3%	4.2%	0.0%	4.0%	9.2%
④南部	39.9%	5.4%	6.1%	3.0%	25.5%
⑤北部	28.2%	6.3%	6.2%	3.4%	12.2%
⑥河辺・雄和	23.8%	8.9%	0.2%	3.6%	11.1%

※合計は、6地区の調査結果を足して算出したもの。いずれも重量ベースであり、端数の関係上、食品ロス割合の内訳（直接廃棄・食べ残し）の合計は、食ロス割合と合致しない場合がある。

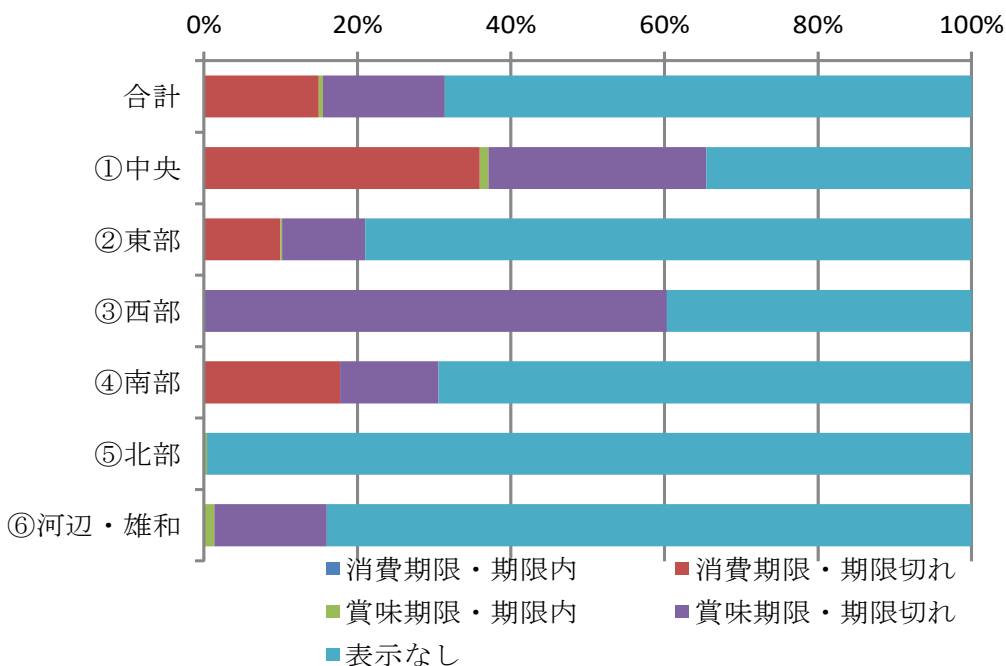
(3) 直接廃棄されたものの消費・賞味期限について

直接廃棄（100%手付かず）の消費・賞味期限の記載状況・期限について（図表4）、6地区の合計割合では「表示なし」が最も多く68.6%であり、消費期限の表示があったものは15.0%（期限内が0.0%、期限切れが15.0%）、賞味期限の表示があったものは16.4%（期限内が0.5%、期限切れが15.9%）となっている。

消費期限に着目すると、「期限切れ」については、①中央で最も高く35.9%であった。

賞味期限に着目すると、「期限内」のものが直接廃棄（100%手付かず）のうち0.5%、地区別に見ると⑥河辺・雄和が最も高く1.3%であった。

図表4 直接廃棄（100%手付かず）の消費・賞味期限について（秋田市）



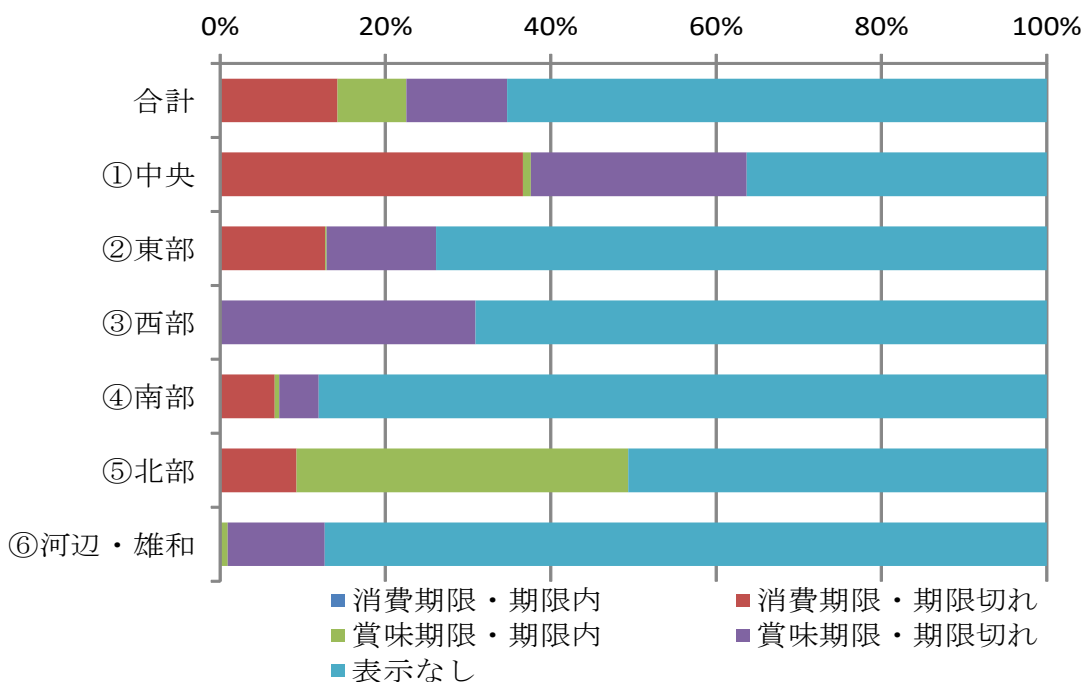
	消費期限		賞味期限		表示なし
	期限内	期限切れ	期限内	期限切れ	
合計	0.0%	15.0%	0.5%	15.9%	68.6%
①中央	0.0%	35.9%	1.2%	28.3%	34.6%
②東部	0.0%	9.9%	0.2%	10.9%	79.0%
③西部	0.0%	0.0%	0.0%	60.3%	39.7%
④南部	0.0%	17.7%	0.0%	12.8%	69.5%
⑤北部	0.0%	0.0%	0.4%	0.0%	99.6%
⑥河辺・雄和	0.0%	0.0%	1.3%	14.7%	84.0%

※合計は、6地区の調査結果を足して算出したもの。いずれも重量ベースであり、端数の関係上、合計が100%にならない場合がある。

同様に、直接廃棄全体（100%手付かず、50%以上残存、50%未満残存）での消費・賞味期限の記載状況・期限について（図表5）、6地区の合計では「表示なし」が最も多く65.3%であり、消費期限の表示があったものは14.2%（期限内0.0%、期限切れ14.2%）、賞味期限の表示があったものは20.5%（期限内8.3%、期限切れ12.2%）となっている。

賞味期限に着目すると、「期限内」のものが直接廃棄のうち8.3%となっている。地区別に見ると⑤北部が最も高く40.1%となっている。

図表5 直接廃棄（合計）の消費・賞味期限について（秋田市）



	消費期限		賞味期限		表示なし
	期限内	期限切れ	期限内	期限切れ	
合計	0.0%	14.2%	8.3%	12.2%	65.3%
①中央	0.0%	36.6%	1.0%	26.1%	36.3%
②東部	0.0%	12.7%	0.2%	13.3%	73.9%
③西部	0.0%	0.0%	0.0%	30.9%	69.1%
④南部	0.0%	6.6%	0.6%	4.8%	88.1%
⑤北部	0.0%	9.2%	40.1%	0.0%	50.6%
⑥河辺・雄和	0.0%	0.0%	0.9%	11.7%	87.3%

※合計は、6地区の調査結果を足して算出したもの。いずれも重量ベースであり、端数の関係上、合計が100%にならない場合がある。

(4) 一人1日当たりの食品ロス発生量

調査結果を踏まえて、令和3年度の実績を参考に一人1日当たりの食品ロス発生量を推計すると47.1g/人・日となり、その内訳を見ると直接廃棄（100%手付かず、50%以上残存、50%未満残存）が24.0g/人/日、食べ残しが23.1g/人・日と推計された。

図表6 一人1日当たりの食品ロス発生量（秋田市）

